

～ひだまり～

3年5組 学級目標

和学煌星

～目的地で輝くために～

第3学年だより

第14号

作文特集号「運動会を終えて」～5組～

熱く盛り上がった運動会から、早いもので1週間が経ちました。“中学校生活最後の運動会”を、大成功させるべく、クラス一丸となって頑張ってきた生徒達。3年生と言えども上手くいくことばかりではなく…。そこには、各クラスの“ドラマ”がありました。

さて、今年度もこれまで同様に、折に触れて「作文」に取り組んでいきます。生徒一人一人の心の動きが、保護者の皆様にも伝われば幸いです。

最初を飾るのは「橙団」の5組です。素敵な2作品を、どうぞお楽しみください。

「優勝よりも価値のあるもの」

中学校生活最後の運動会。私たち三年生は、瑞江三中の最上級生。「1、2年生のお手本になれるように。」「橙組が優勝できるように。」と必死に取り組んだ。

私は、今回の運動会で特に大ムカデが印象に残っている。クラスの団結力が必要となるこの種目。始めは「みんなと足を合わせなきゃ。」と思っていながらも上手くできなかったり、転ぶことを恐れて自信なさげに走っていたりした。

しかし、時間が経つにつれて少しずつ私たちの絆は深まっていった。運動会本番の頃には、不安はなくなり、全員がかけ声や足を合わせて進むことができるようになった。「岩くん！創ちゃん！」私たちのかけ声。このかけ声を言いながら進むと更に絆が深まっていくように感じた。

本番の結果、私たち5組は2位だった。最後に抜かされてしまった。悔しい気持ちはもちろんあった。必死に頑張ってきたからこそ優勝したかった。しかし、一人ひとりが優勝に向かって突き進むとした姿に考えが変わった。どんな結果でもみんなと一緒に頑張れたことが何より嬉しかった。

最初の私は優勝することしか頭になかったかもしれない。しかし、それは違うということはこの運動会が教えてくれた。勝つことよりも大切なこと、「仲間と全力で頑張っていく。」ということが一番大切だと改めて分かった。このクラスの仲間と一緒にゴールに向かい続けることができ本当に良かった。これからどんな困難があってもみんなと協力し合い、乗り越えていきたい。

「最初の音は最後の音」

運動会。最初の音が鳴り響く。それは観客の声でも先生や生徒の声でもない。そう、最初の音は吹奏楽部の綺麗で勢いのある一音だった。私の心の中には、「始まったな。」と思う心の他に、強い緊張感が駆け巡っていた。それは、「仲間に迷惑をかけてしまったらどうしよう。」という気持ちだった。

そのように考えていると、行進が終わり、準備体操が終わっていた。体操が終わり、自席に戻って応援をしていると、私が出場する競技ファイブクリアーが近づき、緊張がより強くなってきた。そうこうしているうちに、ピストルの音が鳴り響く。その音にさえおびえていたが、思いっきり走り出した。最初の障害物を越え、最後まで進むと私の大嫌いな麻袋が現れた。私は、足を入れて今まで以上に大きく跳ねてゴールした。結果は3位で周りから見れば微妙な順位かもしれないが、私にとっては特別な順位だった。なぜなら、練習の時は最下位で悔しい思いをしていたし、みんなの応援の力があってこそその3位だったからだ。私は、この思いを胸に次の種目も頑張った。

そして、この運動会最後の音色が響く。そう、それは最初と同じ吹奏楽部の演奏だった。この音色を聞き、私は思った。あの緊張感は、仲間の足を引っ張ったらどうしようという気持ちもあったが、一番大きかったのは3年生最後の運動会に、ふさわしい姿で競技に取り組みたいという気持ちだったのだと思った。吹奏楽部の演奏が終わり、私の中学生最後の運動会は幕を閉じた。

【担任の先生から】

3年生の皆さん、最後の運動会は「一人ひとりが主役」のとても素敵な運動会になりましたね。それぞれのクラスが団結し、自分のできる最大限を発揮して頑張ってくれたことが何より嬉しかったです。この運動会を通して最高の学年にまた一歩近づけたのかなと思っています。感動をありがとう。

3年5組の皆さん、先生が何も言わなくても自分たちで声を掛け合い、お互いにアドバイスを言いながら取り組む姿がすごく頼もしかったです。先生が居なくても自分たちで色んなことができる姿が嬉しくもあり、「そうだ。もう3年生なんだよな…。」と少し寂しくも感じた運動会でした。